

平成30年度第1回前橋市総合教育会議会議録

日 時 平成30年7月17日(火) 午後3時00分から午後4時02分まで

場 所 市役所3階31会議室

(市長)

山 本 龍

(教育委員)

教 育 長	塩 崎 政 江	教育長職務代理者	村 山 昌 暢
委 員	湯 澤 晃	委 員	奈 良 知 彦
委 員	石 井 裕 美		

(事務局)

教 育 次 長	根 岸 隆 夫	教育施設課長	井 野 寿 志
総 務 課 長	田 村 聡 史	学校教育課長	青 木 美紀夫
文化財保護課長	田 中 隆 夫	青少年課長	渡 邊 隆 志
生涯学習課長	若 島 敦 子	図書館長	栗 木 佳 香
総合教育プラザ館長	山 中 茂 樹		
前橋高等学校事務長	武 井 裕 之		
政 策 部 長	稲 田 貴 宣		

教育次長　　これより平成30年度第1回前橋市総合教育会議を開会いたします。本日の進行は事務局で務めさせていただきます。それでは最初に山本市長からごあいさつをお願いいたします。

市長　　本日は、いくつかの事業についてお話しがあると思っていますので、楽しみにしております。これまで、何度も話をしていますが、教育行政については、教育長を中心にお任せして、進めていただくのが良いと思っております。そういった意味では、聞き手として参加できればと思っております。

教育次長　　ありがとうございます。続きまして教育長からごあいさつをお願いいたします。

教育長　　この総合教育会議も平成27年度から始まりました。市長と教育委員が意見交換できる大変貴重な機会だと思っております。

振り返ってみると、平成27年度は、「魅力ある教育がまちに人を呼ぶ～人口減少社会における教育の在り方を考える～」との議題で、そんな中から「校務補助員」などが実施されてきたのだと思います。平成28年度は、幼児期の保育と親育ちとして、福祉部と一緒に幼児教育について話し合っただき、まえばし幼児教育充実指針「めぶく～幼児の育ち～」の作成に繋がったのだと思います。平成29年度については、これからの社会教育についてご議論いただきました。そして昨年1年間かけて教育振興基本計画について改訂をさせていただきました。第七次前橋市総合計画の考え方に基づいて、第2期教育振興基本計画を作成できたと思っております。

市長も「子供たちが生き生きするためにはどうしたら良いかを考えるときに、先生たちが額に皺を寄せているようでは駄目であろう」と言ってくださり、そういった意味で、芯を貫いた議論ができる貴重な会議だと思っております。

本日は平成30年度の重点事業の内容についてと退職した先生方の力を生かすためにはどうしたら良いかといった2点で多くのご意見をいただければありがたいです。

教育次長　　ありがとうございます。それでは、協議事項に入らせていただきます。

議題1 平成30年度重点事業の実施状況について

教育次長　　本市教育委員会においては、昨年度に改定いたしました「教育振興基本計画」と年度ごとに定める「重点事業」を合わせて「教育の大綱」としまして、教育行政を進めているところでございます。

平成30年度の「重点事業」については、お配りしてある資料のとおりですが、概要を説明させていただき、その後、意見交換とさせていただきます。

1番目は「地域寺子屋事業の拡充」です。

平成28年度からの事業になりますが、学習支援と学校との連携ということで、教員OBの方に行っていただいております。

2番目の「赤城山ろく里山学校の充実」についてですが、平成30年度は8地区ということで豊かな自然や土地の特性を生かした体験活動を行っております。

3番目の「教員の多忙さ解消の推進」については、教員が子供と向き合う時間を確保するというので、平成28年度から「前橋小学校教科指導講師」の配置により教員の時間の確保に取り組んでおります。また、部活動の指導員の配置も検討しております。

生徒の健康面や教員の負担の面などから、「適正な部活動の運営に関する方針」も今年度作成しております。

4番目は「青少年支援事業」です。

学校における生徒指導上の様々な問題に対して、青少年支援センターが迅速に学校と連携・協力して解決に努めております。

5番目の「ICTを活用した教育の推進」についてですが、ICTを活用し、子供たちが「思わず身を乗り出すような授業」の実現を目指しているところです。

6番目の「小学校英語教育の充実」についてですが、今年度、小学校3、4年生での外国語活動、5、6年生での外国語科の先行実施を行っております。「前橋イングリッシュサポーター」を増員して、外国語を用いて自らの思いや考えを伝え合うことの楽しさを味わえる授業づくりを推進しております。

7番目は「特別支援教育体制の充実」です。

今年度も引き続き、一人一人の障害や発達段階、特性等に適した指導を行うための特別支援教育体制の充実を図っています。

学習サポーターを多数配置し、担任と協力しながら個別に支援を要する子供の生活や学習上の援助に当たっています。

8番目の「幼児教育と親育ちの支援」についてです。

平成28年度に「まえばし幼児教育充実指針 めぶく～幼児の育ち～」を策定し、昨年度末には改訂を行って、子供も親も育て合えることを目指しております。

9番目は「公民館・コミュニティセンターの充実」です。

コミュニティセンターを地域の活動拠点として高めていくことについて、昨年度社会教育委員会議から提言をいただきました。こうした点を踏まえ、地域の拠点となるよう第一コミュニティセンターの直営化を行うなど、様々な取り組みを行っているところです。

10番目は「文化財の活用の推進」です。

昨年度に臨江閣がリニューアルオープンし、本年5月には国の重要文化財に指定が決定されております。他にも国の重要文化財として阿久沢家住宅もありますが、こういった文化財を活用しながら、子供たちや市民の方の学びの場になるよう取り組みをしております。法律改正もありまして、活用が重要となってきております。

以上が概要となります。ここからは意見交換とさせていただきます。まずは、教育長からお願いいたします。

教 育 長 昨年度末に市長にもご協力いただき、重点を決めさせていただきました。教育委員になじみのある事業からスタートさせていただきます。

奈 良 委 員 地域寺子屋事業について、課題として指導者、地域サポーター、大学生サポーターの恒常的な確保とありますが、指導者はこういった方がなさっているのでしょうか。また、大学生はどういった協力をしてきていますか。

学校教育課長 指導者については、地域で指導に当たれる方をお願いしています。大学生については指導内容の補助をしてもらっています。

奈 良 委 員 指導者の方は元教員の方なのでしょうか。

学校教育課長 元教員の方もいますし、一般の方もいらっしゃいます。

教 育 長 「地域寺子屋」の名前は市長が命名したのではなかったでしょうか。

市 長 私が言っていたのは「赤ペン先生」でした。

教 育 長 「学校寺子屋」と区別するために「地域寺子屋」という名称にしたと思います。中学生を対象にしているため、中学校の近く、例えば公民館で出来ると良いと始まった事業です。元教員などの指導者がいて、大学生のサポーターがいるのですが、できれば中学校区すべてで実施したいので、そうなると人材の確保が難しくなるのが課題となっています。

市 長 地域寺子屋はシラバスを持って行っているものではありません。子供たちが自主的に勉強をして、分からないところの導きをする程度で、一定の学力のある大人ならできるものだと思います。もう一步踏み込んで呼びかければ、集められると思っています。

奈 良 委 員 子供たちが自主的に自分たちで学習したり、またグループで助け合っ

たりとても良い雰囲気でありました。そこで雑談の場にならないようにするのが指導員の役割だと思います。

部活動についても方針が出され、練習時間も短くなってくるので、子供の居場所づくりが大切になります。この地域寺子屋事業と上手く組み合わせれば良いと思います。余りにも時間があると、非行に走ったりということもあるので、いい雰囲気、自分たちで学習ができればよいと思います。

教 育 長 中学校ごとに寺子屋が設置できれば、例えば、テスト期間中は帰りが早いので、その期間は開始時間を早めるとか、また部活動が休みの日も同様に開始時間を早めたりそういったことが当該中学校の状況に応じてできるようになると思います。

奈 良 委 員 大学生との関わりはとても良いと思います。関わりを持ちたい大学生もいると思うので、対象を広げてもらえればと思います。

教 育 長 大学生が来ると生徒たちも喜びますので、多くの学生に来てもらえるとう良いと思います。こちらのA中学校にはあるけど、B中学校にはないとなるとかわいそうですので、全中学校区で設置できればと思っております。

湯 澤 委 員 教員の多忙さ解消ということで、多くの人を使って充実していきたいということですが、直接的に現場のニーズを聞く機会が少ないので、直接聞いてみたいという気持ちはあります。若い人の仕事を奪ってしまっは問題だと思いますし、教員の年齢のバランスを考えれば退職教員の方も活躍していただく必要があると思います。需要と供給のバランスが大切です。

実際に現場ではこういったニーズがあるのか、場合によっては現場も気づいていないものもあるかもしれません。そういった場合はパイロット事業として実施してみることも必要だと思います。

教 育 長 多忙さ解消のために、小学校教科指導講師や校務補助員、部活動指導員などがおりますが、そのほかにもオープンアサポーターやスクールアシスタントなど、前橋イングリッシュサポーター、学習サポーターなどのスタッフが配置されております。何か現場から特にニーズが高いものはありましたでしょうか。

学 校 教 育 課 どの職員にも役割がありますので、どれがというのはありませんが、多忙さ解消について言えば、小学校教科指導講師の配置により空きコマを作れるようになり大変助かっているという声をいただいています。小

学校の学級担任の先生は朝から晩まで子供たちと離れることができませんので、空き時間の確保が難しい状況でした。そこに教科指導講師が配置され、その講師が授業をしている間は空きコマとなり、非常に効果的であったと思います。

教 育 長 今回の学習指導要領の改訂で小学校3年生から6年生まで週1コマ授業が増えました。そういう中で教員は増えないので、これまで以上に空き時間が取れない状況でした。

湯 澤 委 員 想像はしていたのですが、授業参観などでも先生はなかなか教室から離れられないと思います。そんな中では、授業時間と子供と接している時間以外は時間が取れないと思います。そうなれば、準備等は子供が帰った後にしなければならず、最終的には子供たちに影響が及ぶ気がします。したがってニーズがあるとすれば、人の配置については重点事業として外せないと思います。

教 育 長 ニーズを踏まえて何を重点事業として取り組むかを考えていくことが大切だと思います。

石 井 委 員 英語教育については小学校3年生からの授業が先行実施されるということで興味を持っています。早い時期から英語に触れ、楽しいと感じることができればより吸収が早くなると思います。

教 育 長 学校訪問などを通して、小学校3、4年生の外国語活動の授業はどういった感じでしょうか。

学校教育課長 先生自身が英語の専門でないので、外国語活動が始まる時に、話せない、上手くコミュニケーションが取れないという不安が強かったのですが、前橋イングリッシュサポーターが配置され、無理なく活動ができています。また、総合教育プラザで作成したスターターキットを利用することで、外国語活動に対するハードルは大分下がったと思います。どの学年、どの学校を見てもスムーズに授業ができています。

教 育 長 イングリッシュサポーターが担任と協力して、楽しい授業ができています。従来の日本の英語教育は、単語から覚えていくというやり方でしたが、これからは大分変わってくると思います。

村 山 委 員 国語や算数などではなく、外国語のコミュニケーションで力を発揮できる子供たちも見えてきて、そういった意味では小学校での英語教育の

良さを理解できました。私自身は、国語に力を入れた方が、英語が伸びるのではという思いから、小学校からの英語教育に懐疑的な部分もありましたが、今回良さを理解できました。

教 育 長 外国語教育は、コミュニケーションなので、国語、算数、理科、社会とは違った面が見えて、担任の児童理解が深まったという報告もあり、良かったと思います。先ほどスターターキットを作成したとのことですが、これはこういったものなのでしょうか。

総合教育プラザ館長 昨年度長期研修員と共に作成したデジタル化した資料です。年間の計画例や授業のプラン、また実際に指導主事と長期研修員で模擬授業を行っている様子も入っています。そして関係する資料がリンク付けされているので、すぐ資料が探せる内容となっています。Webページ形式で庁内のサーバに置いてあります。

教 育 長 英語が専門ではない先生もこれを見れば教材が出てくるというもので、本市独自で作成しました。小学校英語も、課題はありますが、順調にスタートできたと思います。

また、今回大変お騒がせしている件にも関わりますが、ICTを活用した教育についてです。これについて、本市でどのように推進していくのが良いのか市長や教育委員からもご意見を伺いたいと思っております。

実際にまだ教室では子供たちがインターネットを繋げる状況には至っていないのですが、今後、前橋市の教育が積み上げてきたものをどうやって繋げていくかということについてご意見をいただければと思います。こういうことがあったからこそ、考えなければならないものだと思います。

奈 良 委 員 ICT教育と今回の件は分けて考えるべきだと思います。これからの子供たちにとって必要であるから、先進的にすべての学校にタブレットを配置した訳ですから、分けて考えたほうが良いです。子供たちにとってマイナスになるのは良くないです。

村 山 委 員 息子の高校の技術家庭科の教科書を見て、パワーポイントを使っているので驚いた記憶があります。かつては、男女でカリキュラムが技術科と家庭科で分かれていましたが、今は同じものをやっています。ICTについても子供たちが生きていく上で必要なものだと思います。時代によって変わってくるものだと思います。

教 育 長 どの子供もICTを使えるようになることが必要だということです。

市長 ICTは学ぶものではなく、学ぶための道具であると言われてますが、道具を家庭で買える子も買えない子もいるので、公教育として用意していく取り組みも必要だと思います。ただ、インターネットプロトコルまで学ぶ必要は無く、負担になってしまうのは良くないと思います。

教育長 子供たちがICTを道具として使えることが必要ですが、貧困家庭などの問題もありますので、公教育としてすべての子供たちが使える環境を整えてあげることが必要だと感じています。

石井委員 家でも使用しますが、学校で学べることも良いことだと思います。

議題2 退職教員の活躍の場について

教育次長 続きまして、議題2の「退職教員の活躍の場について」です。

教員については、県の職員であるため、県の制度に基づき再任用制度が実施されておりますが、本市においても、総合教育プラザや児童文化センター、あるいは地域寺子屋の指導員として、退職された先生にその力を発揮していただいております。

教育長からも話がありましたが、資料も配付させていただいておりますので、その説明もさせていただき、意見交換をお願いしたいと思います。

配付した資料は、教職員の年齢の分布になっております。25歳辺りから65歳までとなります。50歳以下の若い世代が少なくなっております。50歳を越えている人数は多く、特に59歳については80人ほどになっております。また、既に退職された方は、再任用としてや市の嘱託員として活躍しておられます。下の表をご覧くださいと、例えば61歳の男性は、29名のうち12名、女性は34名のうち11名は県の再任用となっております。その他、市では、幼児教育センターや児童文化センター等で19名の教員OBの方が勤務しておられます。今後も退職される方が多数いらっしゃるの、その方たちにどのような場面で活躍してもらおうかということについて、ご協議いただければと思います。

教育長 13ページの資料を見ると唖然としてしまうほど30代、40代の先生が少ないという印象です。下の表を見ても、再任用の制度があつたとしても3分の1程度の方だけとなります。

奈良委員 自分も65歳に近いですが、まだまだ気力もありますし、同じように社会に関わりたいと思っている人は多いと思います。その経験や知識を、子供たちだけではなくて、保護者や地域に生かしたいという気持ちがあると思います。再任用制度を利用する人が少ない印象ですが、利用しない人たちはどうしているのかと気になります。そういった方たち

が、地域寺子屋や里山学校など地域との繋がりを持つ中で活躍してくれればと思います。それなりの経験や知識をお持ちになった方に、週2日間か3日間で、活躍していただければと思います。

教 育 長 保護者への対応や地域での活躍ということについて、もう少し詳しく教えてください。

奈 良 委 員 今保護者の方も忙しく、相談するところもないため、そういった方へのアドバイスですとか、地域の方からの相談員だとか、公民館の中で学校と地域を結ぶ役割ですとか色々あると思います。

教 育 長 教員は、再任用となると現役と同じ時間働くこととなり、負担に感じる方もいらっしゃると思うので、週2、3日の勤務で活躍の場があれば良いと思います。

湯 澤 委 員 退職される方については大変貴重な存在であると思いますので、この方たちを使わない手はないと思います。一方で若者の就業機会を奪ってはならないので、バランスが大切なのだと思います。

子供の数が減少したとしても、学校には一定の人数が必要であり、そういったことから退職した先生方の活躍の場はたくさんあると思います。実は人に教えることが出来る仕事は大変貴重であり、公の仕事だけではなく民間までその活躍の場を広げていけるのではと思います。

今の60歳は若いので活躍できる場は設けるべきですし、市の方も協力して出来る限りのことをしていただければと思います。

教 育 長 若い人の活躍を奪わないで退職者の活躍の場を広げるという意味では、若手育成の場面で活躍の場があると思います

村 山 委 員 人にもものを教えるノウハウを次の世代に残したいと思っている方は多くいると思いますので、そういった方の活躍の場が設けられると良いと思います。

教 育 長 学校文化をどのように伝えていくのかという話ですね。

石 井 委 員 重点項目の8にも関連するのですが、子育て中の親として思うのは、経験のある教員OBの方から保護者が話を聞ける機会ですとか、学校にはなかなか言えないことが相談できたりする方がいると良いと思います。

教 育 長 保護者が相談できる場所があると良いですね。そしてそれが前橋の

教育のためになると良いですね。

これまで30年度重点事業についてご意見をいただき、また退職教員の活躍の場についてもご意見をいただきました。地域や家庭教育、親育ちのためにアドバイスをもらえると良いというご意見もいただきました。

市長 教員の負担軽減のためのプロジェクトをこれだけやっている市町村はないと思います。かなり力を入れています。文部科学省も後追いで学校クランクを制度化したようですが、前橋市は先鞭を取ってやっているわけです。失敗もあると思いますがチャレンジしていくしかないと思います。そして、退職教員がまた関わってくれる制度というか雰囲気づくりが必要なのだと思います。「M-change」という名称で生活保護世帯の子供たちの支援を福祉部で行っています。こちらは、共愛国際大学に委託をして行っています。福祉と教育委員会で子供たちを支援していくということですが、退職後のんびりと歴史の研究をやってみようという先生が戻ってくるということなのではないでしょうか。奈良委員もザスパクサツ群馬の社長になっておられますし。学校の先生は、戻ってきてくれると思います。待っているしかないと思います。

教育長 ありがとうございます。総合教育会議で出た意見については、事務局内でもしっかりと記録し、前向きに取り組んでいければと思っております。

教育次長 次回の予定につきましては、協議すべき議題が出ましたら、改めて総合教育会議を開催させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

教育次長 具体的な日程については、改めて事務局からご連絡を申し上げます。

教育次長 以上で本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会いたします。ありがとうございました。

(午後4時02分)